



三珠中学校校長室だより
令和8年1月 9日発行
No.38
文責 校長 渡邊 康裕

三珠中HPはここから！



誰もが安心して通える学校を目指していましょう

私事ではありますが冬季休業中は、妻の逝去に関して、保護者の皆様にはお心遣いをいただき、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。寒さ厳しき折、皆様、どうぞご自愛ください。

▼新しい年、新しい学期が始まりました。言うまでもなく3学期は令和7年度のまとめの学期です。また、3学期の授業日数は51日(3年生は42日)と1・2学期(1学期73日、2学期78日)と比べて極端に少なく、あつという間に過ぎていってしまう学期でもあります。▼始業式では、この年末年始の経験から、生徒のみなさんにどうしても伝えたいことがあったため、少々長くて重たい話になってしまいました。話の内容は以下の通りです。話をしっかりと聴いてくれた生徒のみなさんどうもありがとうございました。▼私は大学4年生の春に母を亡くしています。母の死因はくも膜下出血で本当に突然のことでした。当時の私は二十歳をとうに過ぎていたにも関わらず自分本位で精神的に幼く、生活も乱れていたので、母とは顔を合わせる度にぶつかり合っていました。母が倒れた日の朝も、小言を言ってくる母に向かって『うるさい！』と言って私は家を出でていきました。その言葉が母との最後の会話になるとは知らずに……。▼私の母は長い間、旧市川大門町の町立病院の調理師をしていました。私の記憶では、母は朝6時頃から出勤する早番と、午前9時頃に出勤する遅番を繰り返していました。その日は遅番で午前9時前に病院に着き、ロッカールームで着替えようとしたその瞬間に倒れたのでした。母に暴言を吐いて出て行った私はどうにも面白くなく、授業を受ける気にもなれずに家に帰ります。家に戻って来てしばらくすると電話のベルが鳴り、母が倒れたことを知り、病院に駆けつけました。▼母の出血箇所は生命を維持する臓器を司る脳幹の近くでした。私が病院に着いた時には普段の元気な母の姿はなく、どんなに大きな声で呼びかけても反応することのない人工呼吸器によって生かされている母がただベッドに横たわっていました。あれ程鬱陶しいと思っていた母だったのに……『お願いだから目を開けてよ』、『居なくなっちゃうなんて嫌だよ』、『本当に今までごめんなさい』……。私は奇跡を信じて、力の限り母に呼びかけました。倒れてから約2日後の昭和63年5月8日、母は帰らぬ人となりました。皮肉なことにその日は母の日でした。▼母が亡くなつてから数日間、私は失意のどん底にあり、学校にも行けず、何もする気が起りませんでした。あれ

だけ大嫌いだと思っていた母が、実は誰よりも愛しくて大切な人であったのだとようやく気付くことができました。私の顔さえ見れば浴びせてきた腹の立つ言葉の数々……それは私の未来を案じるが故に母親として言わざにはいられなかった愛情の裏返しなのでした。不思議なもので思い出すのは母との楽しかった思い出のみ。そんなかけがえのない時間を共に過ごした母と、もう二度と会うことができないと思うと表現のしようのない寂しさに襲われました。▼数週間、辛い時間が続きました。いつのこと学校も辞めてしまおう……。そんなことを何度も考えました。6月には教育実習が予定されていました。私は教育学部に所属しており、母は私が教師になることを望んでいました。しかしその当時の私は、「親の思うままの人生を歩むなんてまっぴらだ」と考えてただただ反発し、大した努力をしている訳でもないのに卒業後は県外へ出るなどと子ども染みたことを言っていました。母が亡くなり1ヶ月近くの時間が流れました。何もする気が起きなかった自分から、「母に恥ずかしくない生き方をしなくては」と思う自分に変わっていたのです。「母が期待していた教師の仕事を、まずは4週間、全力でやってみよう」と考えることができたのです。▼その4週間は、大変なこと、時間的な束縛は長かったですが、これほど1つのことに熱中できたのは初めてでしたし、「先生っていいなあ」、「本物の先生になりたいなあ」と心から思える、大変充実した時間を過ごすことができました。そして、親が願っていたからではなく自分の意思で「先生になろう」と考えましたし、先生になるからには、これまで母から教わった人として大切にすべきことを、しっかりと教え子に伝えられるような先生になろうと決意したのです。▼あれから37年の歳月が流れ、これまでの教員生活を振り返ると、教師として未熟な故に多くの失敗や至らぬ点がありましたが、あのとき母に誓った「人として誠実な教師でありたい」という気持ちはぶれることなくできていると、それだけは母に誇らしく伝えることができそうです。誰よりも愛しい人を亡くしてようやく気が付くことができた大切なことを私の関わる生徒たちに伝えることも今の私にできる大切な役割だと思っています。▼『人はその気になればいつだって変わることができること』。『どんなことでも、それが苦手なことや嫌なことであったとしても、一生懸命頑張れば新たな視界が開けること』。『自分を大切にできる人になること。それができれば自然と自分と同じく大切な存在が集まって社会が成り立っているということが理解できること』。そして『三珠中にはそんなかけがえのない存在が集まっていること』そんなことを伝えられるよう頑張って参ります。